

# さんこう昔話文庫

## 第10話 和氣清麻呂の猪物語

神護景雲3年（769）、弓削道鏡(ゆげのどうきょう)は、勅使和氣清麻呂の宇佐神宮の神勅によって、皇位踐祚(せんそ)の夢を絶たれる。怒った道鏡は清麻呂を大隈（現在の鹿児島県）に流すが、清麻呂はその途中、再度宇佐神宮に立ち寄ろうとして、八面山麓の加来村まで来て足を悪くした。

療養している清麻呂に、命をねらう道鏡の刺客が近づいている、という知らせが届いた。動けないでいる清麻呂のもとに、箭山(ややま)から三百頭のイノシシが現れ、清麿を乗せ、宇佐神宮まで案内すると、八面山に帰っていった。イノシシの入った地に社を建て、清麻呂を祭った。それが猪山(ちょさん)八幡社で、その跡地が上田口の猪山にある

和氣清麻呂を祭る京都の護王神社の拝殿前には、狛犬のかわりに猪の雌雄が相對峙している。全国に8万余りの神社があり、ア・ウンの相をした狛犬はどこでもよく見られるが、猪が對峙しているのは護王神社1社のみである。

明治32年亥の歳発行の十円紙幣には、表に清麻呂、裏にイノシシの絵が印刷されている。こんなことからこの十円札は“イノシシ”と呼ばれ価値は高かった。このイノシシが八面山のイノシシであるという。



護王神社 <http://www.gooujinja.or.jp/>